

5

演 題

興味関心を膨らまし、子どもの一步を待つ保育を
職員で共有することで変わった1歳児の一年間

法人名	社会福祉法人 白百合会
施設名	上末吉白百合保育園

発表者名 (職名)	菘部 明日香 (保育士)	住所	横浜市鶴見区上末吉3-5-2		
発表者名 (職名)		TEL	045-581-7451	FAX	045-581-7452
発表者名 (職名)		メールアドレス	kamisueyoshi@yacht.ocn.ne.jp		
		URL			
		定員	60名	職員数	30名

発表の概要・内容

興味関心が広がっていき、友だちと遊ぶことも楽しくなってくる1歳児クラスが気持ちを開放してダイナミックに遊べる夏。特に感触遊びは五感を使って子どもたちの創造力を育む遊びです。

【苦手なことを楽しい経験に変えるには？】

汚れることが苦手な子にとっての感触遊びを楽しいものにするにはどうしたら良いのか、少しでも感触に慣れていけるようにするにはどんな環境を作りが必要か、など職員間で話してみました。汚れないようにジップロックに入れたものを触ってみたり、ダイナミックに遊ぶ子とは離して落ち着いた空間で遊べるように保障したり、汚れないような感触あそびを取り入れたりと無理なく楽しいを共有できるような工夫をしてきました。

【それでも苦手なものはやりたくない！】

苦手だったり、嫌がってやらなかったりする子たちに対してどう声掛けし、どうアプローチするか、どんな環境作りをしたらいのかを考えて試行錯誤しましたが、やっぱり泥んこ遊びや寒天遊び、絵の具遊びなど汚れることが嫌な子にとっての楽しいよりも嫌！やりたくない！楽しくない！という気持ちには勝てません。

【大好きなみんなが楽しそうだな・・・】

友だちと一緒に！保育者と一緒！が嬉しい、楽しい子どもたちにとって楽しい経験を増やしてあげるために悩んでいたところ「まずは、楽しんでいる子たちと思いきり遊ぶ」というアドバイスをもらいました。苦手な子たちへの配慮や工夫に目を向けがちだった中での新しい視点の考え方だったのですが、物は試しということでクラスの中でも感触遊びが大好きで楽しんでいる子たちと思いきり遊ぶことにしました。すると、今まで同じ空間にもいたがらなかった子たちが楽しそうな友だちや保育者との笑い声や姿を見て、気になって見に来ることが増えました。このきっかけをチャンスだと思い、誘ってみました。が、「やらない」「いやだ」と言ってすぐに離れていってしまいました。また遊びに誘われることを嫌がり、そこからしばらく見に来ることも減ってしまいました。

【やりたいな・・・やってみようかな・・・】

また振り出しに戻ってしまい、どうしたらあの子たちがまた興味をもってくれるかと考え、子どもから遊びに入ってくるまで待ってみようかと話しました。しばらくするとまた楽しそうな様子につられてくる子どもたちの姿がありました。誘いたい気持ちをグッとこらえて、見守っていると…触ってみようとする姿や靴を脱ごうとする姿が出てきました。「すごーい」「さわれたね」と褒めたりせず、そのまま見守っているとだんだん近付いてきて自分から遊びに入ってきました。自分から入ってきたので、そこからはもう汚れることよりも大好きな友だちや保育者と一緒に遊べるのが楽しくダイナミックに泥だらけになって夢中で遊べるようになりました。

【子どもの一步を待つことの大切さ】

やらない、できない、苦手な子に対しての配慮ばかりを考えていた中でのアドバイスを参考に子どもたちがやってみようと思えるような環境を職員間で共有し整え、そこからさらに子どもたちのやってみようを引き出すには待つことの大切さに気付くことができました。自分からやりたいと思い、やってみようとするまで待つ。それが次の遊びに繋がり、子どもたちが心から楽しめるきっかけになったことを実感しています。

メモ